

「くらしを楽しむ」をコンセプトに常に顧客ニーズを追求

くるみの木 奈良県奈良市

旧奈良市街の北の外れ、JR大和路線の線路沿いに、朝から開店待ちの人たちが並ぶ人気の店がある。季節の素材を活かしたランチやスイーツなどとともに、居心地のよい空間を提供している。それがカフェレストラン「くるみの木 一条店」である。

洗練された生活雑貨や、洋服、小物など身につけるものを提供するショップも併設しており、食事ができて上質な生活雑貨も買うことのできる処として、県内外から女性ファンを中心に多くの人たちが連日詰めかける。



「くるみの木一条店」外観（左）とその店内（右）

「くるみの木」は、奈良市の近くのニュータウンに引っ越してきたばかりの専業主婦、石村由起子さん（現オーナー）が約25年前、通りがかりの道端の作業所として使われていた白い建物を見初めてお茶と雑貨の店を開くことになったのが始まり。

開店当時の1980年代半ばは、カフェや雑貨店などが珍しい時代。そのうえ、コーヒーの淹れ方も商品の買付方法もわからない一人の専業主婦が始めたビジネス。当初は閑古鳥が鳴くことも多かったが、「石の上にも3年」の気持ちで頑張り、試行錯誤を重ねながらも徐々にお客様の支持を得て店の経営を軌道に乗せてきた。

開店10年後には2軒目の店「くるみの木・フィールドイズ店」、20年後の2004年にはホテル・レストラン・ショップ・ギャラリーからなる「秋篠の森」もオープンに至っている。

「雑貨とカフェの店は小学生の頃からの夢。夢を叶えるというよりは現実を夢の方に引き寄せてきた」とオーナーの石村さん。言い換えれば、そ

れだけ強い夢があったということだ。石村さんは自分がやりたいことを思いついたらノートにすぐ書き留める。雑誌や新聞をみて参考になる記事があればスクラップブックに切り抜いてきた。こうして、思いや願いを常に自覚し具体化していたからこそ、夢を現実にしてきた。

石村さんの追求するテーマは「くらしを楽しむ」ということ。お客様には「自分が納得できたもの」しか提供しない。レストランの新作料理はお客様に出す前に必ず自分でチェックする。仕入れる食材も雑貨品も納得するまで自分で吟味する。

「自分が納得する」のは、商品やサービスに限らない。居心地のよい空間を創るためにはお客様をもてなす従業員の言葉遣い、立ち居振る舞いについても厳しく指導している。そうすることで「くるみの木ファン」を増やしてきた。



「秋篠の森」の入り口（左）と「ざっか 月草」店内（右）

「秋篠の森」では2室だが上質の住空間を持つホテルを運営している。奈良観光をする宿泊客に出す奈良の食材を探していて「大和野菜」に出会ったが、それをきっかけに奈良の資源にも目を向け積極的に奈良らしさを提供しよう心がけている。

最近では、経営の傍らこれまで培ってきた経営ノウハウを活かして、企業やショップ、自治体などの企画やコンサルティング、プロデュースなどにも関わる。奈良の観光産業活性化にとっても頼もしい存在である。（井阪 英夫）



有限会社 くるみの木

〒631-0012 奈良県奈良市中山町 1534
TEL: 0742-52-8601 FAX: 0742-52-8602
URL: <http://www.kuruminoki.co.jp/top.html>